

様々な体験を子どもたちや島の住人などと共有することができた

まなべしま(学べ島)プロジェクト

活動の目的

中山間地（離島）の子育てを学び子育てや地域おこしの支援を行う

活動の内容及び経過

年間を通して2つの島で以下の活動を行ってきた。延べ日数は21日間で、参加した延べ人数（教員を含む）は126人であった。

- ① 地域行事 運動会やお祭りなどの地域行事への参加や手伝い。
- ② 島おこし行事 地域おこしのための行事への参加や手伝い。
- ③ 自主企画行事 学生の企画により、子どもたちや保護者、教員との交流を通して集団活動を行う。
- ④ 共同企画行事 年間を通じて子どもたちや保護者と意見交換を行いながら、子どもたちが必要としている社会体験の旅を計画・実施した。

活動の成果・効果

対象地域は、人口が少なく、高齢化率が50%を超え、様々な行事を行う人手、特に若者が不足している。学生が準備・片付け・参加をすることでその運営を助け、地域おこしのマンパワーの一部として活動することができた。また、島の人たちとの人間関係も深まり、島の生活の一部を学ぶことができた。

子どもたちは、高校生以上の若年者人口もほとんどいない状況で、集団遊びが十分できない状態であった。子どもたちに近い若い年代の大人として、学生がスポーツなどを通して集団で交流することにより、子どもたちの集団経験を高めることができた。

高校生になると島を出ざる得ない子どもたちにとっては、本土に行って初めての体験をすることも多く、それによってつまづくこともある。そのため、年間を通して保護者や子どもたちの意見を聞き、自主性と社会性を伸ばすため都会体験の旅行を計画・実行した。通勤体験や防災学習、工場見学、調理体験まで幅広く体験することができた。また、保護者にとっても、生活環境の異なる場での子どもたちの行動を見て新たな気づきがあったようだ。特に驚いたのは、旅行中に子どもたちからの提案があり、保護者の反対意見にもかかわらず、話し合いの結果スケジュールを変更することがあった。普段の環境とは違う中で、自分たちの意見を言えることはとても素晴らしく、その場の状況も十分飲み込めているようであった。

学生にとっては、見ず知らずの人たちと人間関係をつけ



ることから始まり、一緒に行事を運営するなど、いろいろな事に挑戦することができた。また、保護者や子どもたちと意見が分かれる難しい場面も経験することができ、大学では学ぶことのできないものを学ぶ場となっている。

今後の課題と問題点

現在2つの島の小学生は、3人と2人の5人であり、中学生も6人に過ぎない。人口が高齢化により減少していきながら、新しい子どもたちは生れていない。また移住者も、ここ10年現れていない。そのような状況の中、小中学校の廃止が取りざたされ、本土の小中学校への通学や移住が話題に上っている。

学校の消滅は、単にそれのみにとどまらず、定期船の減少、地域の空疎化などにつながっており、島の社会の存続に大きくかわる問題である。特に定期船の減少は、生活のすべてを依存している島民にとって、死活問題であり、通院している高齢者も多い。

4年後よりは小学生が1人となり、子どもの集団を作ることすら難しくなっていく。大人の中、一人で成長していく子どもにとって、本土との環境の違いはさらに大きくなっていく。子ども集団の必要性が学校の統廃合をさらに推進する。

そして高齢化はますます進み、高齢者の支援のニーズは高まっていく。現在は、運動会で走っている高齢者もシルバーカーを押しているかもしれない。運動会をはじめとする地域の行事、伝統文化を継承するお祭りが人手不足で開催されない事態も容易に推測できる。

地域おこしのための行事についても、年々準備や片付けに係る人が少なくなり、外部にボランティアを求める状況である。参加者自体は増加しているのだが、運営に関するマンパワーが薄くなっている。今後の開催もスタッフの人数によるところが大きくなっていく。

●代表者：戸田啓介 ●所在地：津山市北園町
●TEL：0868-22-7718 ●E-MAIL：arioka@mimasaka.ac.jp
●設立年：2015年 ●メンバー数：10名